

働くものの生活が守られる闘いを!

滋賀銀従組・年金者部会・さざなみネット合同旗びらき

年金者部会ニュース

滋賀銀行
従業員組合
年金者部会
TEL077-521-2775
FAX077-525-5232



1月19日 大津市内において滋賀銀行従業員組合、同年金者部会、さざなみネットの合同旗びらきが開かれ役員14名が参加しました。

旗びらきは、小原 初に挨拶にたった中特別執行委員の司会 島康隆滋賀従組委員で始まりました。最 長は「昨年末に人事

制度改定の提案を受けました。滋賀銀行を良くしたい、との思いは、組合に関わってこられた先輩方が一番大きいと思えます。人事制度が変わることでのように影響があるのか、組合で議論して対応していきませんが、先輩方の意見を聞きながら労使の接点で今年1年間運動を進めていきたい。」と述べられました。

つづいて、和田一郎年金者部長が挨拶し（挨拶は別項）、倉見栄一年金者部会世話人の音頭で乾杯を行いました。その後、参加者がそれぞれ新年にあたるの抱負などを語り合いながら懇談をしました。

世話人会を開きました

1月19日、世話人会を開きました。協議したことは次の通りです。

◎6月予定のしがの会については、日は前回の世話人会で6月4日（日）に開催で確認済みですが、昨年度の部会総会で行事内容の見直しについては以下の

ように決まりました。昨年10月に熱海で開催の総会で来年「ちぎんの会・西日本総会（仮称）」の開催が決められました。については、「しがの会」の例会も合同にすることにし、今年は例年通り、「グランドゴルフと交流会」を準備することになりました。詳細は次会世話人会で決めることになりましたのでご意見をお寄せください

和田一郎部会長の挨拶

昨年末、マスコミ紙に高齢者という概念を65歳から75歳に変更する案が報じられました。何処まで高齢者をいじめめるのか。政府は高齢者をどうしようとしているのか憤りを覚えます。年金は下げられ今年で合計すると5万円以上になるのではないのでしょうか。高齢者が声を上げて頑張っているかなあかん思います。

銀行は人事制度の改正の提案を見てみるとほんまにひどい提議。今年もよろしくお願ひします。

また、滋賀銀行という名のもとで働き、行動することが何処まで出来るかという時期が近づいてきていると思います。滋賀銀行が残るように私たちも頑張っていました。今年もよろしくお願ひします。

また、滋賀銀行という名のもとで働き、行動することが何処まで出来るかという時期が近づいてきていると思います。滋賀銀行が残るように私たちも頑張っていました。今年もよろしくお願ひします。

◎前号でお知らせしました「会費の改定について」ですが、従組書記局の印刷機が経過年数の関係で故障が続き部品供給が終わっている関係で、早急に対応が求められています。なお、従来より年金者部会の印刷・発送などを全て組合を利用して来ます。従組の財政事情などを考え、改めて議論することになりました。

この節分「トランプは外」で

「アメリカ新大統領就任に思う」

同志社大学大学院教授 浜 矩子

トランプ米国大統領が誕生してしまった。筆者は今、トランプさんをトランプさんと呼ぶことにしよう。決意を固めつつある。なぜなら、彼のこと、どうしてもトランプの皮のパンツを履いた鬼さんにみえてしまうからである。

アメリカの魂の荒廃

トランプ男をホアイトハウズに送り込んだものは何か。それは、アメリカの魂の荒廃だ。かつて、「アメリカンドリーム」といえば、それは外に向かって開かれていて、大らかで伸びやかなアメリカ精神を象徴する言葉だった。誰でも、どこからでも、いつでも、アメリカにおいてよ。

みんなの夢が叶う場所。それがアメリカだ。アメリカ人達が胸を張ってそう謳い上げ、そう謳い上げられる自分たちを誇りに思っていた。この精神をしつかり持ち続けていかなければいけない。そのような気概にも満ちている。それが、アメリカの心意気だったはずである。

格差・貧困の根底は何か

この清新さをアメリカから奪ったものは何なのか。ここで注意しておかなければいけないことが一つある。それはこの「何なのか」という問いかけへの答えが、決して「それはグローバル化だ」という風になってはいけないという

ことだ。グローバル化は単なる現象だ。それが、格差や貧困を呼び込む諸悪の根源だと思いついてはいけない。問題なのは、グローバル化という現象に対する

国々の対処の下手さだ。グローバル化に便乗して我欲を丸出しにする人々の不見識だ。ここを峻別しないで、「反グローバル」のノロシを上げると、トランプ男とその仲間たちの術中にはまる。そして「アメリカ・ファースト」だの「強い日本を取り戻す」といった類の国粹主義の雄叫びに惑わされてしまう。

グローバル時代を共生・包摂の時代に

グローバル時代を善良で賢い市民たちの国境を越えた共生の時代にしなければいけない。そして、人類・国籍を超えた包摂の時代にしなければならぬ。多様な者たちが幅広く抱きとめ合う。そのようなグローバル時代を、我々はトランプ的なるものから守り抜かなければいけない。

日本の我らが最も警戒するべきことは何か。それは、「強い日本を取り戻す」男が一段と勢いづくことだ。アメリカが面倒見てくれないなら、日本が自衛力を強化するしかありませんよね。この論理で戦争が出来る国への道をひた走り。この姿勢がさらに前のめりになって行くことを許してはいけない。

希望の核心― 声をあげる市民たち

アメリカをこれ以上の荒廃から救うには、どうしたらいいか。希望の核心はどこにあるのか。それは、アメリカ内

外で反トランプの声をあげる市民たちの存在だ。息長く、粘り強く、我ら市民たちが声をあげ続ける必要がある。それこそ、グローバルな連帯を持つて分断と排外の政治に「否」を突きつける。この声が絶えない限り、希望はある。この声こそ、希望の音色だ。(はま のりこ)

※全国革新懇ニュース (二〇一七・二・一〇号より転載)

編集後記

お詫び
私の近況は紙面の関係上
次号に掲載することにしました。ご了承ください。

1月アメリカのトランプ氏が大統領に就任しました。世界はどうなるのか。今一番の関心事です。革新懇ニュースに同志社の浜先生の文章が掲載されましたので転載しました。ご意見をお寄せください。